

桐生市における中心市街地活性化方策に関する基礎的研究

足利工業大学 学生会員 ○佐藤 恵英 足利工業大学 非会員 金沢 義治
足利工業大学 非会員 山崎 健太郎 足利工業大学 正会員 為国 孝敏

1. はじめに

近年、全国の地方都市では、中心市街地を活性化させる施策が行われている。しかし、住民のまちづくり意識との整合性が難しく、数多く取り組まれているまちづくり活動も必ずしも良い成果を上げていないのが現状である。

本研究では、群馬県桐生市の中心市街地を対象にアンケート調査を実施し、住民のまちづくりに対する意識構造の分析を行う。さらに現在取り組まれているまちづくり施策や活動との整合性を評価し、今後の方向性について検討する。

2. アンケート調査の概要

本調査は本町一、二丁目及びその周辺地域（図 - 1 参照）を対象とし、まちづくりに関する住民の意識の実態を把握することを目的とした。なお、対象者は対象地域の 15 歳以上の住民として、家庭訪問留置法によるアンケート調査を実施した。アンケート調査の項目は、主に以下の 5 つの内容から構成した。

個人属性、生活環境について

本町一、二丁目について

まちづくり活動について

本一・本二まちづくりの会について

配布数 1,684 票に対し 1,080 票の回答が得られ、このうち 1,048 票が有効回答数であった。回収結果を表 - 1 に示す。

表 - 1 回収結果

区 分	本町一、二丁目	周辺地域	合 計
配 布	669部	958部	1,684部
回 収	532部	548部	1,080部
回収率	80%	57%	64%
有効回答数	522部	526部	1,048部
有効回答率	98%	96%	97%



図 - 1 調査地域の位置

3. 分析結果

(1) 主成分分析

分析の指標には、本町一、二丁目のイメージとして、「住みやすいまち」「歴史や伝統を感じるまち」「活気に満ちているまち」「商店が元気なまち」という 4 つの項目を抽出し分析を行った。表 - 2 に主成分の固有値と寄与率を示す。

表 - 2 から各主成分の解釈を行うと第 1 主成分では住みやすいまちと歴史や伝統を感じるまちが大きな値をとり、平穏性、快適性の軸といえる。第 2 主成分は活気に満ちているまち、商店が元気なまちが大きな値をとり、快活性、経済性の軸といえる。第 1, 2 主成分を軸とし主成分得点を図 - 2 に示す。図中の楕円は各地域の重心である。この結果、本町一、二丁目地域の重心を見てみると、第 1 主性軸はプラス方向に分布し、第 2 主性軸はマイナス方向に分布していることから平穏性、快適性のイメージが強いことが分かる。一方、周辺地域の重心を見てみると第 1 主性軸は、マイナス方向に分布し、第 2 主性軸はプラス方向に分布していることから快活性、経済性のイメージが強いことが分かる。

キーワード 中心市街地活性化, まちづくり, 桐生市

連絡先 〒326-8558 栃木県足利市大前町 268 - 1

TEL.0284-62-0605 FAX.0284-64-1061

表 - 2 主成分の固有値と寄与率

設問項目	第1主成分 固有ベクトル	第2主成分 固有ベクトル
住みやすいまち	0.78	-0.37
歴史や伝統を感じるまち	0.80	-0.28
活気に満ちているまち	0.64	0.66
商店が元気なまち	0.63	0.68
固有値	1.38	0.60
寄与率(%)	54.0	23.5
累積寄与率(%)	54.0	77.5

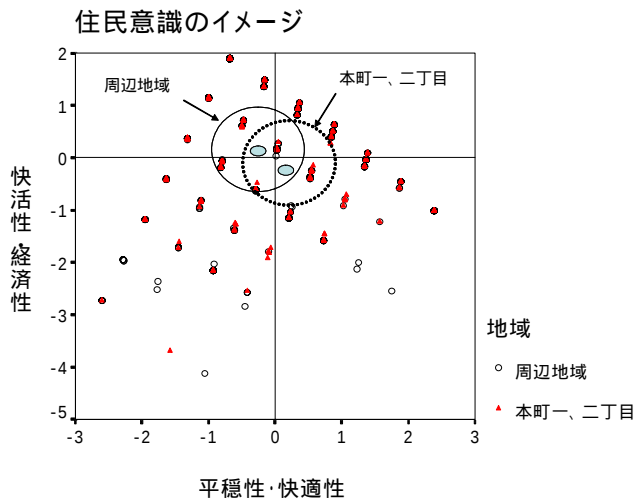


図 - 2 住民意識に対する主成分得点

(2) クラスタ分析

主成分得点によるクラスタ分析の結果、示されるテンドログラムから 4 つのクラスタに分類された。各クラスタの特性を調べるために、性別、年齢、職業、居住年数の項目を取り上げることとする。

本町一、二丁目地域では、クラスタ1 の高年齢層が特に集中している。クラスタ2 では、居住年数 4 年未満の割合が比較的多い。クラスタ3 では、男性、女性の人数を比較すると男性の割合が極端に低い。クラスタ4 では、クラスタ1 とほぼ同じ割合である。(図 - 2 参照)

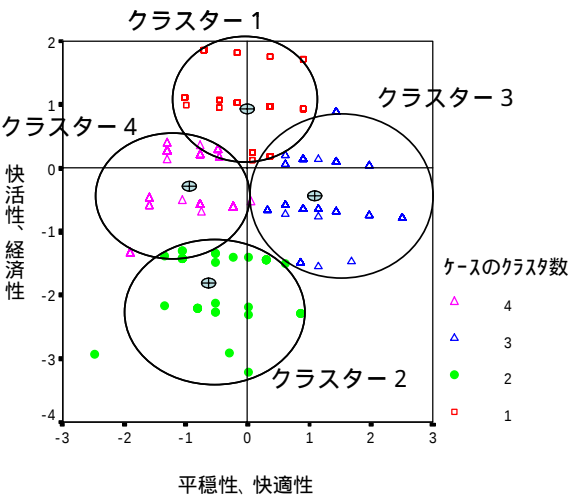


図 - 2 本町一、二丁目

周辺地域では、クラスタ1 の中高年齢層が特に集中している。クラスタ2 では、人数が極端に少ないため目立った傾向がない。クラスタ3 では、会社員が多い。クラスタ4 では、クラスタ1 とほぼ同じ割合である。(図 - 3 参照)

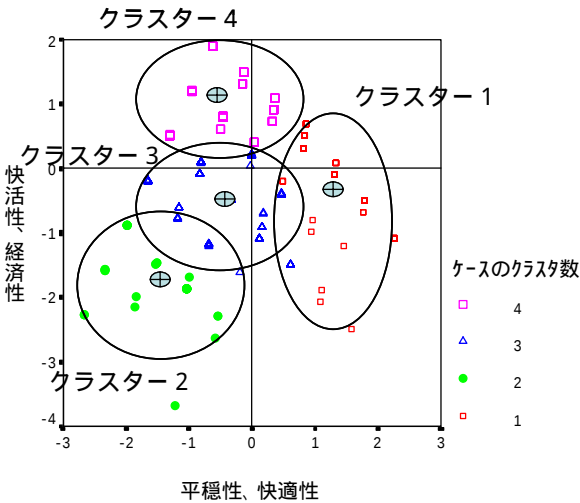


図 - 3 周辺地域

4 . まとめ

本研究では、本町一、二丁目地域における住民の意識構造をアンケート調査により把握した。アンケート結果を単純集計分析、クロス集計分析、主成分分析、クラスタ分析を行った結果、本町一、二丁目のイメージは、「平穏性」「快適性」と「快活性」「経済性」の成分に分類され、将来像としては、「今の道幅で良い」「今の街並みに歴史性を付加する」ことに集約できる。また、まちづくり活動への関心は、低いことも明らかとなり、地域のコミュニティ環境についての関心が醸成されてきていることが挙げられる。

こうした観点からまとめると、本町一、二丁目地域では、「高齢者の活力を活かす」、「内外問わずにコミュニティを充実させる」目的でのまちづくり目標を設定し、それを支援させるような施策（ハード、ソフトともに）を展開させることが必要と考える。

謝辞

本研究にご協力を頂いた桐生市役所都市計画課、本一・本二まちづくりの会、足利工業大学為国研究室の皆様、心より感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 林知己夫：「社会ハンドブック」，朝倉書店，2002.11
- 2) 加藤千恵子・盧志和・石村貞夫：「SPSS でやさしく学ぶアンケート処理」，東京図書株式会社，2003.5